

節約には優先順位がある

手取り収入のうち、6割の中で生活をするにあたって、ただやみくもに節約するのではなく、優先順位をつけて節約することが大切です。「節約」というと、日々我慢をして1円、10円単位を切り詰めるというイメージがありますが、我慢や無理をしては長続きしません。それに、頑張っている割には節約効果が小さいのも悩みどころ。食費や光熱費の無駄を減らすのももちろん大切ですが、よほどエンゲル係数*が高くない限り効果は高くありません。節約を長続きさせるには3つのルールがあります。それは、①金額が大きいもの>小さいもの、②効果が持続するもの>効果が持続しないもの、③我慢が不要なもの>我慢が必要なものから着手するということ。これらのルールに従うと、まずやるべきは固定費の節約です。固定費とは、収入の増減に関係なく、毎月あるいは毎年、一定額かかってくる経費のこと。家計でいえば、月々の家賃や住宅ローン、月謝など毎月支払う教育費、生命保険料などを差します。固定費と対比されるものとして「変動費」「特別支出」があります。変動費は、食費や被服費など、月によって額が変わるお金。特別支出は、旅行や冠婚葬祭などの出費です。

節約は正しい優先順位で！

- ①金額が大きい>金額が小さい
- ②効果が持続する>効果が持続しない
- ③我慢が不要>我慢が必要

支出の内訳の例

固定費	変動費	特別支出
<ul style="list-style-type: none"> ・家賃（住宅ローン） ・光熱費 ・自動車関連費 ・NHK通信料 ・国民年金や健康保険料 ・新聞代 ・教育費 ・クレジットカードの年会費 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・食費 ・外食費 ・衣服費 ・交際費 ・娯楽費 ・医療費 ・日用品費 ・雑費 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・冠婚葬祭費 ・旅行費 ・家賃の更新料 ・車検代 ・帰省代 など

固定費は一度見直してしまえば、その後は何もしなくても節約効果が得られます。

何よりうれしいのがまとまった金額を減らせること。例えば、月々の保険料を5,000円下げ、携帯電話の料金プランを3,000円安くできれば、それだけで毎月8,000円の節約、年間では実に96,000円もの節約になります。50円安い食材を探すのに時間を費やすより、ずっと効率的です。

? 用語解説

エンゲル係数

所得に占める食費の割合。食費が同じであれば、所得が増えるほどエンゲル係数の値は低くなります。